

Change the 卸 next
革新と創造

株主の皆さまへ

株主通信

(第108期事業活動のご報告)

2016年4月1日～2017年3月31日

目次

| | |
|---------------------|---|
| ごあいさつ | 1 |
| 社長メッセージ | 2 |
| メディカルグループについて | 5 |

特集

「Change the 卸 next - 革新と創造」

| | |
|----------------------------|----|
| 安全・安心の医薬品流通 | 7 |
| メディカルグループ ニュース&トピックス | 9 |
| クローズアップ | 11 |
| コーポレートガバナンス | 12 |
| 連結業績ハイライト | 13 |
| セグメント別業績 | 15 |
| 会社概要 | 17 |
| 株式の状況 | 18 |

株式会社 **メディカルホールディングス**

証券コード7459

流通価値の創造を通じて 人々の健康と社会の発展に貢献します。

株主の皆さまには、ますますご清栄のことと拝察申し上げます。

日ごろのご支援に心より感謝申し上げます、ここに株主通信(第108期事業活動のご報告)をお届けいたします。

メディパルグループでは2016年7月に策定した「2019メディパル中期ビジョン Change the 卸 next — 革新と創造」に沿った取組みを進めております。

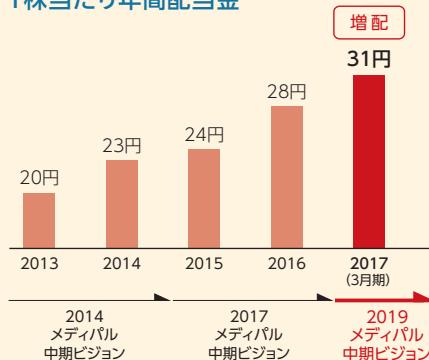
社会インフラを支える企業グループとして、持続的な成長を実現するとともに、「医療と健康、美」の流通で社会に貢献する新しい卸の形をめざしてまいります。

株主の皆さまには、変わらぬご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

配当のご案内 2017年3月期 期末配当 1株当たり16円

当社は、連結配当性向25% **1株当たり年間配当金**を目安に安定配当を継続することを基本方針としております。

当期の財務状況等を勘案の上、2017年3月期の期末配当は従来予想から1円増額し16円、年間配当は31円とさせていただきます。



代表取締役社長
渡辺 秀一

中期ビジョンに沿った取組みを推進

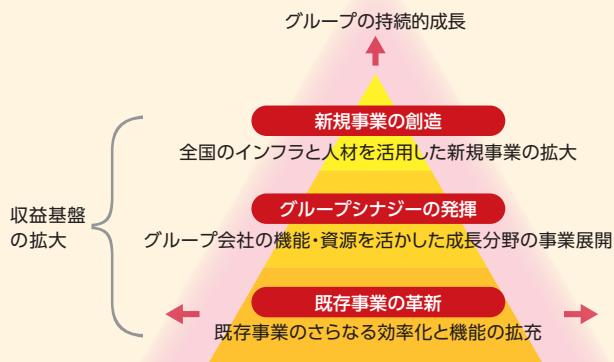
メディパルグループでは、3か年にわたる「2019メディパル中期ビジョン Change the 卸 next — 革新と創造」を策定しています。既存事業のさらなる効率化と機能の拡充、全国のインフラと人材を活用した新規事業の拡大をいっそう進めるとともに、グループ各社の機能・資源を活かした成長分野の事業展開を行うことにより収益基盤を拡大し、当社グループの持続的な成長をめざしています。

初年度にあたる2017年3月期は、本ビジョンに沿った取組みとして、2016年4月、グループ内の事業統合により食品加工原材料等卸売事業を行うメディパル

フーズ株式会社(札幌市中央区)が発足しました。5月には希少疾病用医薬品などのスペシャリティ医薬品の流通における企画・提案を行うSPLine株式会社(東京都中央区)を立ち上げ、6月にはアプリ開発企業でデジタルヘルスケア分野に強みをもつ株式会社エムティーアイ(東京都新宿区)と資本業務提携を行いました。7月には調剤薬局の経営支援などを行う株式会社プレサスキューブ(東京都港区)を合併会社として設立しました。

2019メディパル中期ビジョン

メディパルの全体成長イメージ



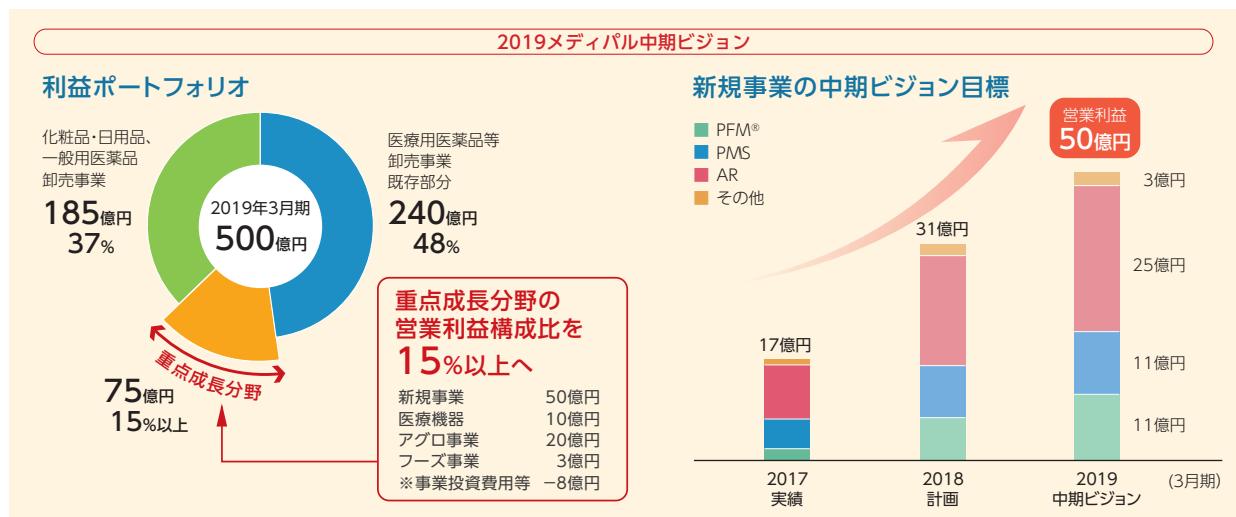
経営目標(2019年3月期)

| | |
|------|-------------------|
| 売上高 | 3兆2,600億円 |
| 営業利益 | 500億円(内、新規事業50億円) |
| 経常利益 | 650億円 |

「next」に向けて各取組みを力強く推進

私たちは常に先を見て、次なる成長の種をまいています。特に環境変化が著しい医療用医薬品等卸売事業において、物流と営業の両機能に磨きをかけるとともに、AR*、PMS*、PFM®*などの新規事業の取組みに積極的な投資を行っています。高機能物流センターのALC*は次世代型が3か所です新たに稼働し、物流体制のさらなる強化と生産性の向上を実現しました。化粧品・日用品、一般用医薬品卸売事業と動物用医薬品・食品加工原材料等卸売事業はいずれも順調に推移しました。

これらの結果、当期における経営成績は、売上高3兆639億円(前期比1.2%増)、営業利益396億円(前期比6.2%減)、経常利益533億円(前期比3.2%減)、親会社株主に帰属する当期純利益290億円(前期比5.7%減)となりました。増収減益となりましたが、将来の新たな収益を創出する事業基盤づくりが一段と進んだ1年だったと言えます。



新規事業の取組みで社会と収益に貢献

メディパルグループで進めている新規事業は、いずれも人々の健やかな暮らしに貢献する取組みであり、収益の安定化に結びつくものと考えています。

この一環として、2017年3月、株式会社産業革新機構（東京都千代田区）、武田薬品工業株式会社（大阪市中央区）との共同出資により、創薬ベンチャー企業の「株式会社スコヒアファーマ」（神奈川県藤沢市）を設立いたしました。また、亜鉛欠乏による疾患の治療に貢献するために、ノーベルファーマ株式会社とノーベルジン錠のコ・プロモーションを開始しました。

いずれも卸の取組みとしては画期的なものですが、私たちの卸機能と人材を活かして流通価値を創造していきたいと考えています。

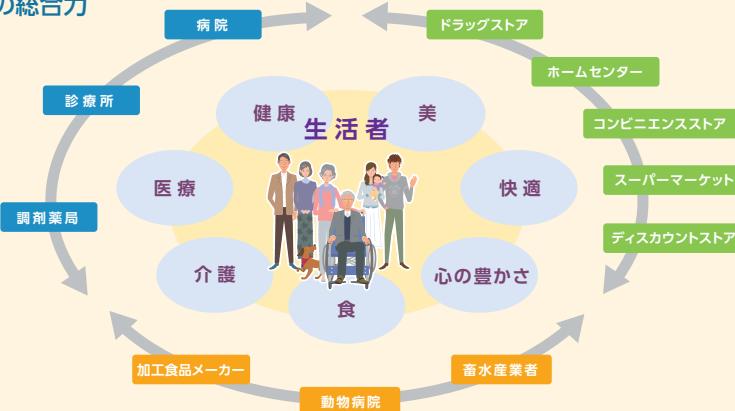
メディパルグループがめざす姿

企業は働く従業員とともに健全に成長し、収益を上げていくことが望ましいと考えています。現在、私たちは多様な働き方に応じた環境づくりや、健康リテラシーを向上させる取組みも進めています。例えば自らが健康で病気になる体づくりを実践するための健康知識やノウハウを習得し、職場や家庭での健康推進を行うために「日本健康マスター検定」への挑戦も始めています。

心身ともに健やかな従業員と一緒に新たな流通価値を創造し、人々の健康と社会の発展に貢献していくことで、メディパルを活力ある企業グループとして、さらに成長させていきたいと思っています。

「医療と健康、美」の流通で、人々の健やかで豊かな暮らしを支える

チームメディパルの総合力



メディパルってどのような会社ですか？

メディパルグループは、「医療と健康、美」を事業フィールドとして、日本国内に300超の拠点をもち、医療用医薬品等卸売事業、化粧品・日用品、一般用医薬品卸売事業、動物用医薬品・食品加工原材料等卸売事業を展開しています。

メディパルグループが取り扱う医薬品や日用品などは、いずれも人々の健やかな暮らしに欠かすことのできないものです。これらの商品と情報をいかなるときも安定的に供給することがメディパルグループの社会的使命です。



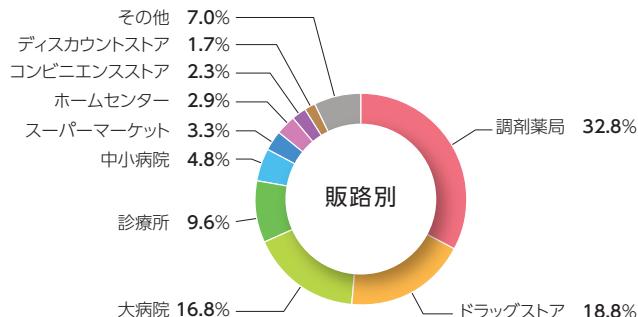
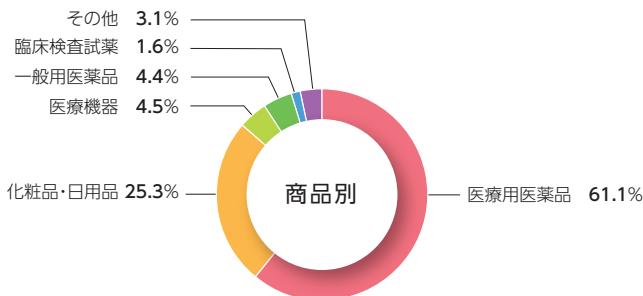
医療用医薬品等卸売事業

化粧品・日用品、一般用医薬品卸売事業

動物用医薬品・食品加工原材料等卸売事業

2017年3月期の連結売上高 **3兆639** 億円

売上高の内訳



メディパルDictionary

| | |
|--|---|
| ALC : Area Logistics Center | 医療用医薬品や医療材料などを扱う高機能物流センター。主に、調剤薬局、病院、診療所に商品を供給 |
| FLC : Front Logistics Center | ALCと連携して、顧客に近い場所で商品の安定供給を支える営業兼物流拠点 |
| PRESUS® : Pharmacy Real-time Support System | ALCと連動して、需要予測による自動発注や在庫管理などを行うオールインワンのシステムで、調剤薬局内の各種業務をサポート |
| MCHIL® : Mediceo Hospital Innovative Logistics | ALCの機能とノウハウを院内内の物流に応用したシステム。院内物流業務の効率化を支援 |
| AR : Assist Representatives | MR認定試験に合格したMS (医薬品卸売業の営業担当者) や薬剤師などに付与した社内呼称 |

メディパルの全国展開

メディパルグループでは、いかなるときも安定供給ができる流通体制を構築するため、全国の流通ネットワークと流通プラットフォームの強化を図っています。

総拠点数

349 拠点

ALC

9 か所

RDC

16 か所
(2017年3月31日現在)

MR認定試験合格者

約 **2,000** 名

(2017年3月31日現在)

日本健康マスター検定合格者

763 名

(2017年3月31日現在)

第5回 教えてメディパルグループ

グループ会社をシリーズで紹介しています



MPアグロ株式会社
MP AGRO CO.,LTD.

設立 1956年7月
売上高 409億26百万円
事業内容 動物用医薬品等卸売事業
従業員数 463名
(2017年3月31日現在)

MPアグロは、動物の病気予防や治療に不可欠な動物用医薬品等を供給している卸売企業です。全国に31拠点を有し、豊富な品揃え、独自のWEB受注システムの導入、自社保有の検査機関を活用した畜水産物の生産サポートなど、広域の動物用医薬品卸としての役割を発揮し、動物の健康と食の安全・安心に貢献してまいります。

PMS : Post Marketing Surveillance

医療用医薬品を発売した企業が、製品の品質、有効性、安全性を確認するために法的に義務づけられた調査

PFM® : Project Finance & Marketing

医療用医薬品の開発投資を通じて、製薬企業とともにリスクとリターンを共有するビジネスモデル

RDC : Regional Distribution Center

化粧品・日用品、一般用医薬品などを扱う大型物流センター。小売業に商品を供給

FDC : Front Distribution Center

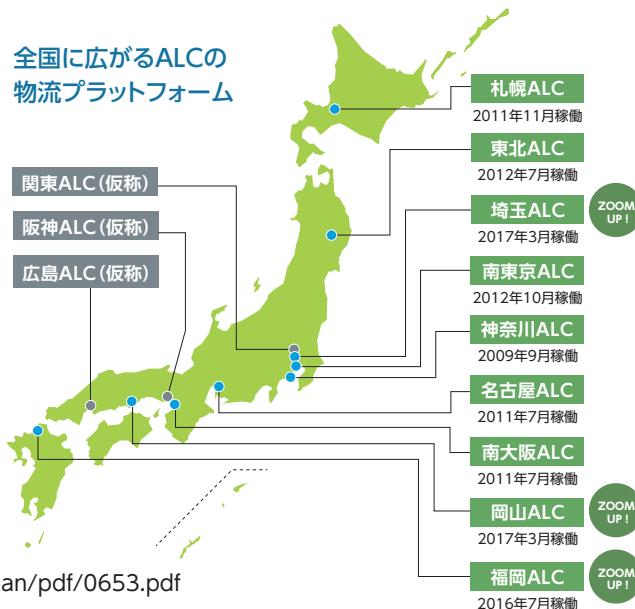
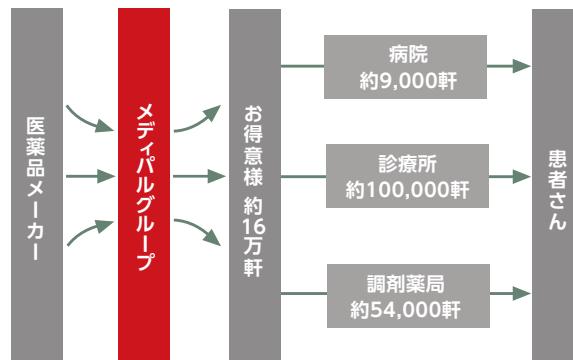
発注頻度の高いケース商品を在庫し、RDCを支援する物流センター

安全・安心の医薬品流通

国内における医療用医薬品は、そのほとんどが医薬品卸を通じた供給になっており、卸是全国の病院、診療所、調剤薬局などに、必要とされる商品を、必要なときに、必要な量だけ安定的に供給する、社会インフラとしての役割を果たしています。

医療用医薬品は人の生命に関わる大事な商品。確かな商品を確実にお届けするために、メディパルグループでは、安全・安心で効率の良い医薬品流通の実現に向けて、常に物流機能の高度化に努めています。

また、自然災害の際にも「止めない物流」として供給を継続するために、さまざまな災害対策に取り組んでいます。



お知らせ

内閣官房「国土強靭化 民間の取組事例集」

当社グループの有事における配送体制の整備が紹介されています。



http://www.cas.go.jp/jp/seisaku/kokudo_kyoujinka/h29_minkan/pdf/0653.pdf

ZOOM
UP!

流通最前線～次世代型の物流機能～

次世代型ALCの特長

Point ①

医療用医薬品、医療材料、臨床検査試薬を
ワンストップで供給

Point ②

自動化により生産性とスピードが格段に向上

ピッキング生産性5倍を実現(従来比)
ピッキングから積み込みまでの時間を1/2に短縮(従来比)



2016年
7月
稼働

アトル 福岡ALC(福岡市東区)



2017年
3月
稼働

メディセオ 埼玉ALC(埼玉県三郷市)



2017年
3月
稼働

エバルス 岡山ALC(岡山県都窪郡)

新型自動倉庫システム『AUPUS(オーパス)』

(Automatic Piece Picking Ultimate System)



ピース自動倉庫(高速自動入出庫装置)



ユニシャトル(高速自動入出庫装置)



クロスベルトソーター(高速自動仕分)

4月

メディパルフーズ(株)発足



6月

(株)エムティーアイとの資本業務提携を発表

医療のIT化への対応、取組み強化を目的として、健康サポートコンテンツ配信事業を展開する(株)エムティーアイとの業務資本提携を発表。

5月

SPLine(株)を設立

スペシャリティ医薬品の流通課題を解決し、安定供給するための総合窓口として設立。

2016

4月

5月

6月

7月

8月

9月

7月

福岡ALC稼働

九州エリア初のALCとして(株)アトルの福岡ALCが稼働。



合併会社(株)プレサスキューブを設立

調剤薬局の経営支援などを行う(株)プレサスキューブを合併会社として設立。

新中期ビジョンを発表

2019メディパル中期ビジョン

Change the 卸 next
革新と創造

基本方針

「医療と健康、美」の流通で、社会に貢献する新しい卸の形をめざし、収益基盤の拡大と持続的な成長を実現します。

12月

「MP+」がスタート

MPアグロ(株)の新WEB受注システム「MP+(エムピープラス)」が本格導入。

2月

(株)エバルス発足20周年記念式典を開催

(株)エバルスが発足20周年の記念式典を開催。



1月

ARが2,000名を突破!

2009年からMR認定試験への取り組みを開始し、累計合格者数が2,000名を突破。

日本健康マスター検定に挑戦

日本健康生活推進協会が運営する第1回「日本健康マスター検定」にメディパルグループで挑戦。



2017

10月

11月

12月

1月

2月

3月

3月

熊本FLC竣工披露式を開催

2016年4月の熊本地震で被災した(株)アトルの熊本ビルが、免震設備や自家発電装置を備えたFLC*として新たに生まれ変わり、竣工。



埼玉ALC稼働

グループ最大規模のALCとして、(株)メディセオの埼玉ALCが稼働。



岡山ALC稼働

中国エリア初のALCとして、(株)エバルスの岡山ALCが稼働。



(株)産業革新機構・武田薬品工業(株)とともに創薬ベンチャー企業の(株)スコヒアファーマを設立

ノベルジン錠のコ・プロモーションを開始

ノーベルファーマ(株)のノベルジン錠が国内で初めて「低亜鉛血症」の効能・効果追加取得。亜鉛補充療法の認知度向上や潜在患者の掘り起こしを開始。

医療の現場に必要な医療機器や情報のご提案

『総合医療フェア』を全国開催

医療用医薬品等卸売事業の各社は、総合医療フェアを開催しており、
2017年3月期は、全国でのべ**10,100**施設、**17,300**名の来場がありました。

総合医療フェアとは

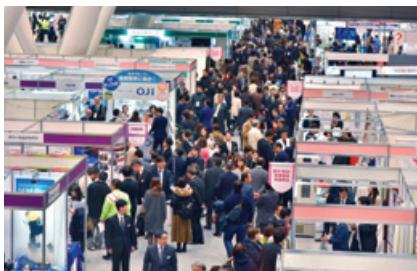
変化している医療環境のなかで、
お得意様のニーズにお応えするため、
グループ各社による総合的
な提案の場として開催しています。



エビス総合医療フェア2016 in 岡山
(2016年12月11日 おかやま未来ホール)



アトル総合医療フェア2016 in 九州
(2016年12月17日・18日 JR九州ホール)



メディセオ総合医療フェア2017 in TOKYO
(2017年1月21日・22日 東京国際フォーラム)



メディセオ総合医療フェア2017 in 京都
(2017年2月5日 みやこめッセ)

総合医療フェア開催一覧



- 1 2016年7月16日・17日
場所: グランフロント大阪
- 2 2016年8月6日・7日
場所: 名古屋市中小企業振興会館
吹上ホール
- 3 2016年11月6日
場所: ホテル金沢
- 4 2016年11月19日・20日
場所: 夢メッセ
- 5 2016年11月23日
場所: アイメッセ
- 6 2016年12月11日
場所: おかやま未来ホール
- 7 2016年12月17日・18日
場所: JR九州ホール
- 8 2017年1月21日・22日
場所: 東京国際フォーラム
- 9 2017年2月5日
場所: みやこめッセ

コーポレートガバナンス

持続的な成長基盤として、コーポレートガバナンスコードに基づく取組みを実行しています。グループ全体におけるガバナンスを適正に機能させることで、経営の透明性と健全性を確保しています。



株主・投資家への情報開示は どのように行っていますか

法令に基づく情報開示だけでなく、株主・投資家の皆さまとのコミュニケーションを大切に考えています。当社ホームページに動画や説明会資料を掲載するなど、積極的な情報開示に努めています。



株主・投資家との対話は どのように行っていますか

株主総会や決算説明会の適時開催、国内・海外の投資家訪問など、株主・投資家の皆さまと積極的に対話する機会を設けています。



社外役員の選任は どのようになっていますか

社外役員の選任にあたっては、会社法上の要件に加え、豊富な経験、高い見識、高度な専門性を重視しています。取締役は10名(男性8名、女性2名)の内3名が社外取締役、監査役は5名の内3名が社外監査役です。取締役会では、多様な視点での質疑・意見により、活発で実質的な議論が行われています。



コンプライアンスの取組みは どのように行っていますか

公正な事業活動を行うため、グループ全体でコンプライアンス教育に取り組むなど、コンプライアンス経営を重視しています。

連結業績ハイライト (2017年3月期)

売上高

3兆639億円

前期比

1.2%増

営業利益

396億円

前期比

6.2%減

経常利益

533億円

前期比

3.2%減

親会社株主に帰属する当期純利益

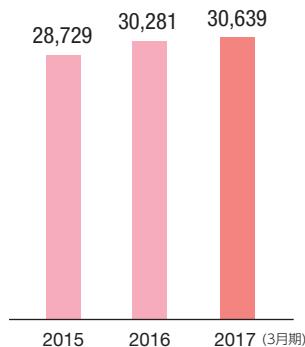
290億円

前期比

5.7%減

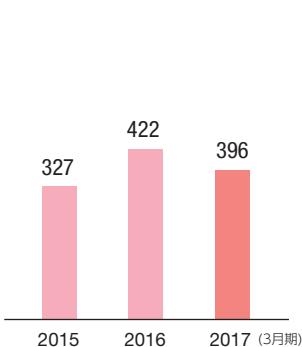
売上高

(単位:億円)



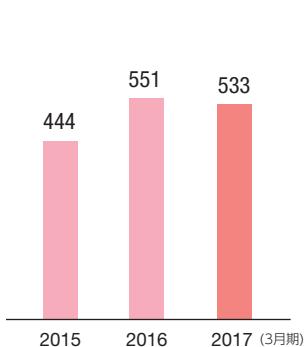
営業利益

(単位:億円)



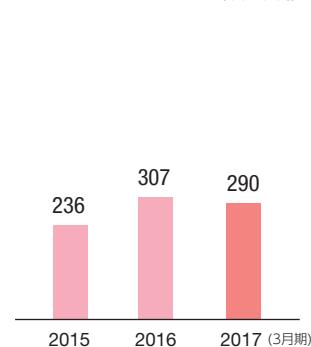
経常利益

(単位:億円)



親会社株主に帰属する
当期純利益

(単位:億円)

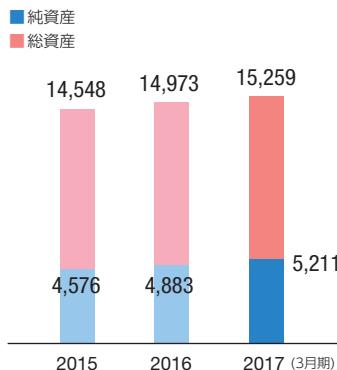


当期の業績と次期の見通し

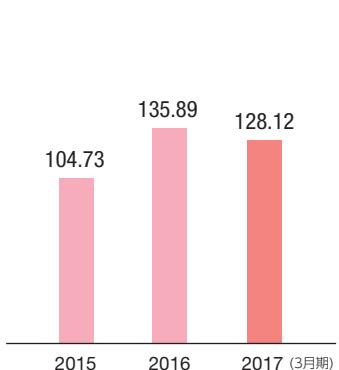
| | | 2017年3月期 | 2018年3月期 (予想) | 前期比 (予想) |
|-----------------|------|----------|------------------|-------------|
| 売上高 | (億円) | 30,639 | 31,160 | 101.7% |
| 営業利益 | (億円) | 396 | 425 | 107.2% |
| 経常利益 | (億円) | 533 | 560 | 104.9% |
| 親会社株主に帰属する当期純利益 | (億円) | 290 | 300 | 103.4% |
| 1株当たり当期純利益 | (円) | 128.12 | 132.49 | 103.4% |
| 1株当たり配当金 | (円) | 31 | 32 | + 1 円 |

「2019メディパル中期ビジョン」に沿って、既存事業の効率化と機能の拡充、新規事業の拡大、成長分野への事業展開を行うことで収益基盤の拡大に取り組みます。また、2017年4月に簡易吸収分割により当社の完全子会社である(株)メディセオのシステム本部にかかる事業を当社が承継し、グループ全体のシステムにおけるガバナンス強化を図るとともに、今後のシステム企画開発を円滑かつ迅速に進めます。株主の皆さまへの利益配分は、連結配当性向25%を目安に安定配当を継続していきます。

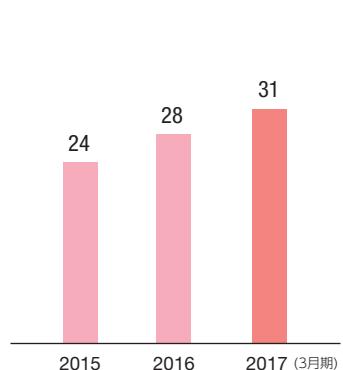
純資産／総資産 (単位:億円)



1株当たり当期純利益 (単位:円)

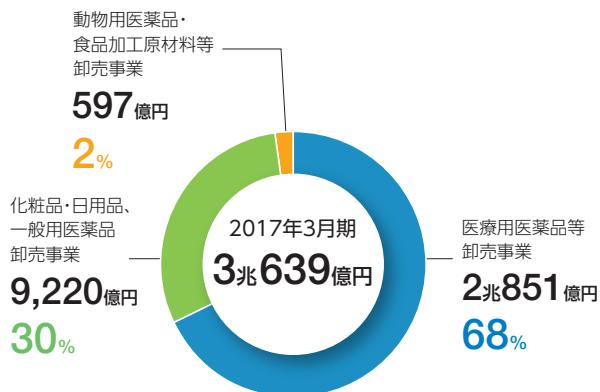


1株当たり配当金 (単位:円)

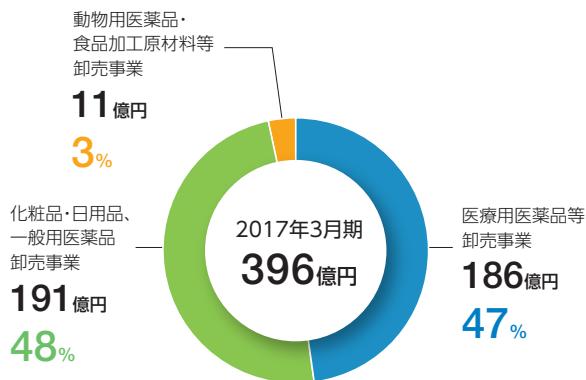


セグメント別業績 (2017年3月期)

セグメント別売上高構成比



セグメント別営業利益構成比



※連結消去の数字を除いて表示しているため、合計は100%になりません。

医療用医薬品等卸売事業



- (株)メディセオ
- (株)エパルス
- (株)アトル
- SPLine (株)
- (株)MMコーポレーション

2016年4月の薬価引下げ、後発医薬品の拡大、C型肝炎治療薬のピークアウトなどにより、市場はマイナス成長となりました。そのようななか、物流と営業の各機能の拡充と新規事業育成のために、積極投資を進めました。

- 2017年3月期は「福岡ALC」「埼玉ALC」「岡山ALC」が新たに稼働。ALCが全国9か所へ拡大。
- ALC稼働エリア内のFLC設置を推進。
- ARプロモーション、PMS、PFM®などの新規事業が収益に貢献。

売上高

2兆851 億円

前期比 1.8%減

営業利益

186 億円

前期比 23.9%減

■ 売上高
● 営業利益
(単位:億円)



化粧品・日用品、一般用医薬品卸売事業



- (株)PALTAC

売上高、利益ともに順調に推移するなか、中長期的成長に向け「顧客満足の最大化と流通コストの最小化」をコーポレートスローガンに、サプライチェーン全体の最適化・効率化への取組みを推進しました。また、営業体制の強化および物流機能の強化を図りました。

- 生産性向上と出荷能力拡大を目的として「RDC^{※1}関東」の隣接地に「FDC^{※1}白岡」が稼働。
- 関東エリアのコントロールセンターとして東京都北区に新拠点を開設。
- 「FDC広島(仮称)」の建設および「RDC沖縄」の増設など、基盤強化に向けた設備投資を実行。

売上高

9,220 億円

前期比 7.2 %増

営業利益

191 億円

前期比 17.4 %増



動物用医薬品・食品加工原材料等卸売事業



- MPアグロ(株)
- メディパルフーズ(株)

動物用医薬品・食品加工原材料等の販売は順調に推移しました。

動物用医薬品

- 畜産向け市場において家畜の疾病予防や食肉の品質向上につながる飼料添加物を積極的に販売。
- コンパニオンアニマル^{※2}向け市場において新商品の皮膚疾患治療薬や高齢化に関わる商品の販売に注力。

食品加工原材料

- グループ内の事業統合により仕入・販売ルートを全国に拡大。

売上高

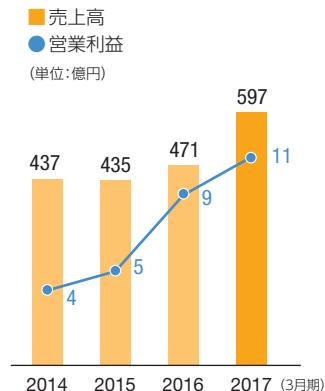
597 億円

前期比 26.7 %増

営業利益

11 億円

前期比 23.9 %増



※1 用語説明は、5-6ページのメディカルDictionaryをご参照ください。

※2 コンパニオンアニマルとは、伴侶動物とも表現され、日常生活のなかで人とより密接な関係を保つような動物を指しております。

会社概要 (2017年3月31日現在)

| | | |
|--------|----------------------------------|--------|
| 商号 | 株式会社メディパルホールディングス | |
| 本社所在地 | 〒104 - 8461 東京都中央区八重洲二丁目7番15号 | |
| 資本金 | 223億98百万円 | |
| 創業 | 1898(明治31)年10月8日 | |
| 設立 | 1923(大正12)年5月6日 | |
| 従業員数 | 13,252名(連結ベース) | |
| 取締役*1 | 代表取締役社長 | 渡辺 秀一 |
| | 専務取締役 | 長福 恭弘 |
| | 常務取締役 | 依田 俊英 |
| | 取締役 | 左近 祐史 |
| | 取締役 | 長谷川 卓郎 |
| | 取締役 | 渡辺 紳二郎 |
| | 取締役 | 二宮 邦夫 |
| | 社外取締役 | 川野辺 充子 |
| | 社外取締役 | 加々美 光子 |
| | 社外取締役 | 浅野 敏雄 |
| 監査役*1 | 常勤監査役 | 木瀬 彰 |
| | 常勤監査役 | 平澤 利夫 |
| | 社外監査役 | 板澤 幸雄 |
| | 社外監査役 | 北川 哲雄 |
| | 社外監査役 | 豊田 友康 |
| 執行役員*2 | 主席執行役員 | 木村 友彦 |
| | 主席執行役員 | 鎗水 博司 |
| | 上席執行役員 | 清水 雅明 |
| | 上席執行役員 | 川原 正範 |
| | 上席執行役員 | 竹村 秀明 |
| | 執行役員 | 高世 健一 |
| | 執行役員 | 京極 光弘 |
| | 執行役員 | 中村 公雄 |
| | 執行役員 | 筒井 久 |
| | 執行役員 | 桑島 洋一 |
| | 執行役員 | 柏木 整 |
| | 執行役員 | 橋田 一夫 |

*1 2017年6月27日現在

*2 2017年7月1日現在

グループ会社

持株会社

株式会社メディパルホールディングス

医療用医薬品等卸売事業会社

株式会社メディセオ(東京都中央区)

株式会社エパルス(広島市中区)

株式会社アトル(福岡市東区)

SPLine株式会社(東京都中央区)

株式会社MMコーポレーション(東京都文京区)

株式会社アステック(茨城県つくば市)*3

株式会社MVC(福岡県東区)*3

メディエ株式会社(東京都中央区)*3

株式会社エム・アイ・シー(東京都文京区)*3

株式会社トリム(神戸市中央区)*3

四国薬業株式会社(愛媛県伊予郡砥部町)*4

株式会社よんやく(愛媛県伊予郡砥部町)*4

中澤氏家薬業株式会社(高知県南国市)*4

東七株式会社(長崎県佐世保市)*4

化粧品・日用品、一般用医薬品卸売事業会社

株式会社PALTAC(大阪市中央区)

動物用医薬品・食品加工原材料等卸売事業会社

MPアグロ株式会社(北海道北広島市)

メディパルフーズ株式会社(札幌市中央区)

*3 2018年3月期より連結対象

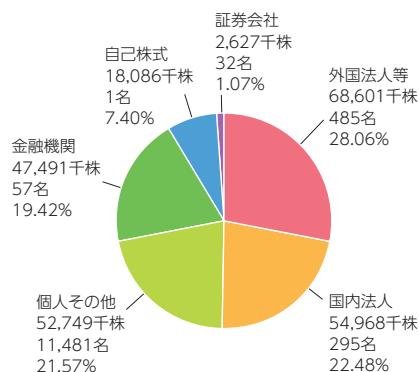
*4 資本・業務提携会社

株式の状況 (2017年3月31日現在)

株式の状況

| | |
|----------|--------------|
| 発行可能株式総数 | 900,000,000株 |
| 発行済株式総数 | 244,524,496株 |
| 株主数 | 12,351名 |

所有者別分布状況 (持株比率)

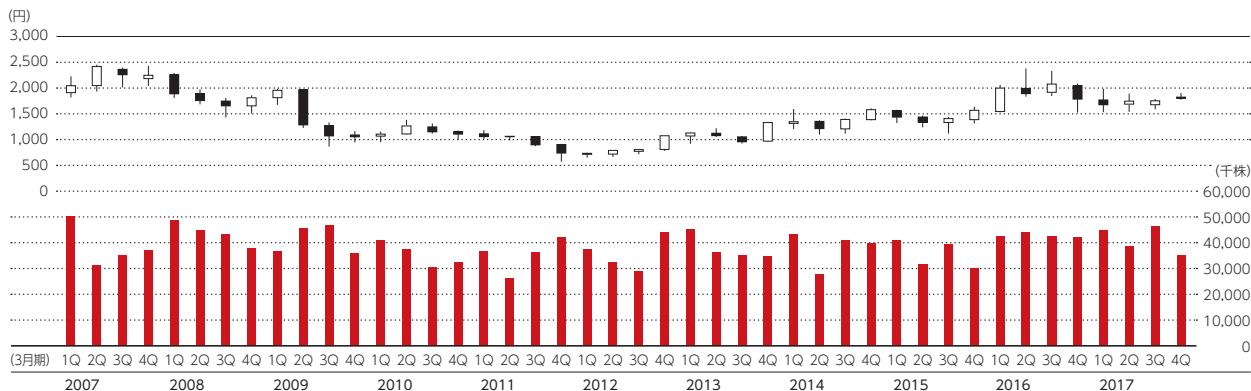


大株主

| 株主名 | 持株数 (千株) | 持株比率 (%) |
|--|-------------|-------------|
| 武田薬品工業株式会社 | 22,900 | 10.11 |
| MPグループメディセオ従業員持株会 | 7,787 | 3.44 |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口) | 7,387 | 3.26 |
| 日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口) | 6,522 | 2.88 |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (三井住友信託銀行再信託分・エーザイ株式会社退職給付信託口) | 5,845 | 2.58 |
| 小林製薬株式会社 | 5,074 | 2.24 |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口5) | 3,625 | 1.60 |
| みずほ信託銀行株式会社 退職給付信託 第一三共口 再信託受託者 資産管理サービス信託銀行株式会社 | 3,274 | 1.45 |
| 大日本住友製薬株式会社 | 3,149 | 1.39 |
| 熊倉 貞武 | 3,105 | 1.37 |

(注) 1. 当社は自己株式18,086千株を保有しておりますが、上記の大株主からは除いております。
 2. 持株比率は発行済株式の総数から自己株式を控除して計算しております。
 3. 持株比率は小数点第3位を四捨五入して表示しております。

株価および株式売買高の推移 (四半期足)



株主メモ (2017年3月31日現在)

| | |
|---------------------------|---|
| 事業年度 | 毎年4月1日から翌年3月31日まで |
| 定時株主総会 | 毎年6月開催 |
| 基準日 | 定時株主総会基準日 毎年3月31日 期末配当基準日 毎年3月31日 中間配当基準日 毎年9月30日 そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して基準日を定めます。 |
| 公告掲載新聞 | 日本経済新聞 |
| 上場証券取引所 | 東京証券取引所市場第一部 |
| 証券コード | 7459 |
| 単元株式数 | 100株 |
| 株主名簿管理人および 特別口座の口座管理機関 | 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 |
| 株主名簿管理人 事務取扱場所 | 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 |
| (郵便物送付先) | 〒168 - 0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 |
| (電話照会先) | 0120 - 782 - 031 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 |
| (インターネット ホームページ照会先) | http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html |

マイナンバー制度に関する 手続きについて

市区町村から通知されたマイナンバーは、株式の税務関係のお手続きで必要となります。

株式関係事務におけるマイナンバーの利用

法令に定められたとおり、支払調書に株主さまのマイナンバーを記載し、税務署に提出いたします。このため、株主さまからお取引のある証券会社等へ、以下のとおりマイナンバーを届出いただく必要がございます。

証券会社の口座で株式を管理されている株主さま

お取引の証券会社までお問い合わせください。

証券会社とのお取引がない株主さま

三井住友信託銀行株式会社 証券代行部(左記の電話照会先)までお問い合わせください。

株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について

証券会社に口座を開設されている株主さまは、住所変更等のお届出およびご照会は、口座のある証券会社宛にお願いいたします。証券会社に口座を開設されていない株主さまは、上記の電話照会先にご連絡ください。

特別口座について

株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていなかった株主さまには、株主名簿管理人である上記の三井住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といえます。)を開設いたしました。特別口座についてのご照会および住所変更等のお届出は、上記の電話照会先をお願いいたします。

見直しに関する注意事項

この株主通信に記載されている当社グループの計画、見直し、戦略などは、経済の動向、業界の動向、市場の競争状況などの影響を受けます。そのため、実際の業績はこれら見直しと異なる可能性がありますことをご承知おきください。